

陸上競技全国大会 播磨南中の上田君、伊藤さん、中村君、安立さんの4人が出場



第30回全日本中学校陸上競技選手権大会への出場を前に、播磨南中学校3年の上田将吾君（110㍃H・古田）、伊藤真由美さん（砲丸投げ・宮北）、同中学2年の中村仁君（110㍃H・北本荘）、安立理香さん（100㍃H・本荘）の激励会が役場町長室で行われました。

激励会では、佐伯町長と大辻教育長から「何か打ち込めるということとは素晴らしい。みんなの代表として、ぜひ頑張ってください」と励ましの言葉をもらいました。

その後、札幌市厚別公園競技場で、8月19日(火)から始まった同大会に臨み、中村君が5位入賞と素晴らしい結果を収めました。

大中遺跡まつりで 古代のロマンを感じる



▲「弥生パレード」の一コマ

台風10号が通過した8月9日(土)、大中遺跡で大中遺跡まつりが開催さ

れました。参加者は、貫頭衣に身を包み「いのしし狩り」「まが玉づくり」などにチャレンツシ、古代の生活を体験。夕暮れとともに、弥生時代の祭礼が再現された「弥生パレード」が始まると、古代にタイムスリップしたようでした。

町指定無形民俗文化財の古宮獅子舞や、太鼓の演奏などもあり、大変盛り上がりしました。

18年ぶりに綺麗な花が咲きました

レポーター 西村 英和さん



朝方につぼみはしぼみ...

夜中に綺麗な花を咲かせます

このたび、近隣の方から情報をいただき、話を伺うことができました。

「18年前の結婚記念日に和歌山県の植物園へ行き、サボテンを持ち帰りました。『サボテンは必ず花が咲きます』と言われ、枯らさないように必死で育てましたが、1年が過ぎ、5年が過ぎ、10年が過ぎ、今年花が咲かなければあきらめようとも思っていました。そうするうち、ついにサボテンにつぼみがつきました。つぼみが膨らんできた時のうれしさは、なんとも言えないものです。一日一日つぼみが大きくなり、7月下旬には見事に花を咲かせました。サボテンの名前は『タルゲマルサボテン』といいます。夕刻からぼちぼちつぼみが開いていき、夜中に綺麗な花を咲かせ、朝方になるとしぼんでいきます。今まで育ててきてよかったと思っっています。他にも観葉植物を20鉢以上、10年以上趣味で育てており、これからも頑張っ育てていきたいです」と話されました。

今回情報を提供していただいた近隣の方に感謝いたします。ありがとうございました。

地域の話題や行事をはじめ、「これは何?」「何?」と感じたことなど気軽に知らせてください。企画調整課 広報係 ☎0794(35)03356

「竜舌蘭」62年目に開花!

レポーター 茶本 恵子さん



▲こんなに高くなりました花茎の先に咲いた花

今年、広い道路のすぐそばで開花したため、近所の方だけでなく、車で通る多くの人々の目を惹かせてくれたこの「竜舌蘭」は、9月には既に枯れ始めていました。今度は、いつか見てみたいのでしようか?

今年の夏、明石の運転免許試験場近くの民家で、62年前に植えられた「竜舌蘭」が開花しました。そこに長年住んでおられる井上様のお話によりますと、普段は巨大なアロエのような肉厚の葉が広がっているのですが、5月ごろから花茎が1日に約10センチずつ伸び始め、2カ月くらいかけて約7メートルの高さに成長したそうです。私をはじめ取材した8月には、小さな黄色い花がいくつか咲いていました。

また、県立「人と自然の博物館」の鈴木武研究員によりますと、「竜舌蘭」は江戸時代にメキシコから日本にやってきた巨大な多年草で、数十年に一度だけ花を咲かせ、開花後は株ごと枯れてしまうそうです。英語ではセンチュリー・プラントと呼ばれ、一世紀に一度花を咲かせることから名付けられたようです。実際は、気候や栄養状態などで開花までの年数は異なりますが、日本では30年から60年くらいかかるとです。また、その葉からはキーパーというお酒が造られます。

在宅介護支援 シャンプー講習会を実施



▲薄めたシャンプーを使うのもコツ

8月25日(月)、在宅の寝たきり高齢者や障害者の介護をしている方々に、洗髪方法を学んでもらう講習会が、中央公民館で開かれました。

播磨ウエストフレンズ県大会優勝!



▲播磨ウエストフレンズのメンバーたち

「第17回近畿ろうきん杯学童軟式野球大会」が、8月15日(金)〜17日(日)に日岡山公園野球場・神鋼別府野球場などで行われ、加古郡代表として出場した播磨ウエストフレンズが優勝しました。

県下各地から予選を勝ち抜いた32チームが参加。準々決勝で春の県大会優勝の桜台ハンターズ(伊丹)、決勝では全国大会出場の三木ユニオンズクラブ(三木)を破り、見事優勝を収めました。

11月9日(日)から甲子園で行われる近畿大会に、県の代表として出場しますの応援よろしくお願いします。

写真・お便りコーナー



▲P.N. 四葉結姫 (本荘)



▲P.N. SNOOPY (本荘)



▲P.N. いちご (宮西)

心のメッセージや絵、マンガ、詩、写真などを募集しています。はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、〒675-0182 (個別番号・住所記載不要) 播磨町役場企画調整課まで (掲載させていただいた方には記念品を差し上げますので、匿名希望、ペンネームの方も住所などお書きください)

あなたに はつまつ子

リレーエッセー⑥

子供たちと共に

私は播磨町にある5つの小学校の子供たちをはじめ、他の地域の子供たちを集めて、播磨サッカークラブでボランティアとして、サッカーの指導をしています。当クラブは設立以来23年を経過して、卒園生も500人近く送り出してきましたが、設立当初よりサッカーの技術指導はもとより、『健全な青少年の育成』を第一の目的として、日々子供たちと共に汗を流しています。時として、私の中では仕事よりも高い比重を占める場合が、時間的にも体力的にも、また、精神的にも多々あります。しかし、一生懸命にボールを追っかける子供たちの姿を見ていると、私の生来からの『サッカー馬鹿』が顔を出してきて、それもまた

楽しんできてしまうのです。最近の子供たちは、高度情報化社会における豊富な知識と、欲しければ何でも手に入る有り余る物によって、一見、非常に恵まれた社会環境の中で生活しているように見えますが、昔の子供に比べて豊かな体格と同様に、見かけは立派ですが実情はすぐに怒ってみたり、すねてみたりと、精神的に不安定で我慢強さと集中力が非常に希薄です。また、肉体的にも、試合中に転倒してすぐに骨折したり捻挫したり、特に夏場においてはバテるのが早く、俗にいう熱中症にかかる子供が多く、我々指導者の悩みは深まるばかりです。私は建築業（大工）を営んでおりますが、いつも家づくりと

人づくりの難しさを感じて、しばしば実感しています。丈夫な家（人）を造るには、しっかりとした基礎（知力・体力）が必要で、そして、何よりも大切なものが、造る人間の精神（指導者の情熱）が込められているかという点だと思います。前述しましたように、昔に比べて弱く感じる子供たちの増加に加えて、少子化による児童数の減少を考えると、『健全な青少年の育成』に今後何が必要かと思ひ悩みます。ただ、我々大人が真摯に子供を見つめ、常に子供の視線で物事を考え、しっかりと『魂』を吹き込んで、子供たちと共に泣き、共に笑って歩んでいければと思います。そして、そこには家庭と学校と地域社会がしっかりとスクラムを組むことが必要不可欠と考えます。



さかくち まさのぶ
坂口 正信さん
(北本荘)

趣味
サッカー・パソコン
好きな言葉
人生を損得だけで生きる人は、真の感謝と喜びは味わえない

わんぱくはりまっ子



おち 越智 かやねちゃん (5さい) かざうみ 風海くん (3さい)
古宮
元気に育ってね
(お父さん・お母さんより)



このコーナーに出ていただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(3歳～5歳対象) 広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもらってもけっこうです。

今回は「心の居場所」としての家庭の役割について考えてみたいと思います。人は、胎児の段階には、心身ともに健康な母親の胎内が唯一の「心の居場所」です。誕生後の赤ちゃんは、母親の献身的な声かけや抱っこで母親はいつでも守ってくれる存在と信じて疑いません。やがて、成長するにつれ、父親や自分を取り巻く家族が、安らぎの場となっていきます。保育園・幼稚園から小学校・中学校に進むに従って、少しずつ社会性を身に付け、友だちや学園が第2・第3の「心の居場所」となっていきます。このように、ひとり立ちするまで家庭は、「心の居場所」として

不登校について考える (3) 家庭は「心の居場所」 子どもの悩み相談員 松田政雄

豊かな心をはぐくんでくれます。社会人となって心も心が疲れた時、これらの原風景が心を癒してくれます。同窓会を開き、友人との語りいで元気が出るのも、その時代に友人や学校が「心の居場所」であり得たからでしょう。不登校は、友人や学校生活が第2・第3の「心の居場所」として希薄になったためにおこるといえます。親が子の不登校に動揺し、最も基本的基盤としての家庭までが心の落ち着く場所にならなくなり、ついに自室に閉じこもってしまったのが引きこもりです。家庭を心のオアシスにしたいものです。

保育園の夏祭り

キューピット保育園



▲今年も増えたね、夏の思い出

今にも泣き出しそうな空の下、浴衣を着せてもらい、お母さんに手をひかれ、どの子もニコニコ笑顔で盆踊りの会場に集まりました。金魚すくい、くじびき、ヨーヨーやジュースのお店… 夜店にはあつという間に行列ができました。金券をギュッと握りしめ、目をキラキラ輝かせ、自分の番はまだかと待ちごおしそう。友だちがくじをひく姿を背のびをしてのぞいたり、うらやましそうに見ています。やっと自分の番がくると、くじをひく目は真剣そのもの!! 「当たり」のおもちゃを抱え、大満足の様子でした。夜店が終わると、みんな大きな輪になって踊ったアンパンマン音頭。子どもたちのどんだん高まっていく気持ちとは裏腹に、残念ながら雨が降ってしまいました。子どもたちは楽しい思い出がまた一つ、増えたよつです。

楽しかったね、夏まつり

播磨幼稚園



▲みんなで心をひとつに

7月27日(日)は、播磨町の夏まつり。「もうすぐバールンするねん」 「人がいっぱい!!」 と出番を待ちながら張り切っている子どもたち。いよいよ出番です。ひまわりをつけたかわいいう少年少女が、ひまわりサンバのリズムに合わせて楽しく踊りました。「あれ? 何か見えてきたぞ!!」そこには、バールンの大きなひょうたん島が見えてきました。その周りを、ポンポンを持って魚になって泳ぎまわる年中児。バンダナをつけた年長児が、力いっぱいバールンをふくらませます。「えいっ」と手を離れたバールンが空に浮かんだ時には、大きな拍手と歓声が聞こえてきました。「やあっ!!」と最後のポーズもかっこよくきまり、みんなの心がひとつになれた、笑顔いっぱいの日でした。

総合学習 ~インターナショナル クッキング~ 蓮池小学校



▲ステニングさんと

姜さんと

「ナイス・トゥー・ミーチュー」「アソニオンハセヨ」と、英語と韓国語であいさつをする4年生。国際交流協会の協力のおかげで、外国の方をお招きし、母国の料理を教えてくださいました。お招きしたのはオーストラリアから留学されているステニングさんと、播磨町在住の姜さん。オーストラリアのお菓子と、韓国風うどんの作り方を教えていただきました。お二人に手伝ってもらいながら、コアをとしたり、にんじんや肉を切ったり、うどんをゆでたり… 慣れない手つきながらも、楽しくクッキング。その合間には、自己紹介をしたり、外国の暮らしについてお聞きしたり、交流を深めることができました。出来上がった料理のおいしかったこと!! 笑顔がはじけた一日になりました。

みんなの心が一つに!! 最高の思い出

播磨中学校 吹奏楽部



▲吹奏楽部のメンバー

私たちが吹奏楽部は、「いい音楽創り」そして、「県大会出場」を目標に、一生懸命練習してきました。いい音楽は一人では決して創れません。みんなが目標を胸に、頑張ろうという気持ちになって初めて一つの音楽ができていくのです。こうして私たちは、目標にしていた県大会に出場することができました。大きな舞台で緊張しましたが、これまでの練習の成果を十分に発揮し、最高の演奏をすることができました。そして、金賞という素晴らしい評価をしていただき、喜びと感動、ここまでやり遂げたという達成感が胸がいっぱいです。ここまでやってこれたのは、たくさんの方々の応援や励ましがあったからこそです。これからもよりいい音楽創りを目指し、部員一同一つになって、頑張っていきたいと思っております。